

ソフトウェア サプライチェーン管理の決定版!

JFrog

ソフトウェア開発から
配布までの全プロセスを自動化・管理する
DevSecOpsプラットフォーム



最高情報セキュリティ責任者
(CISO)

ルーシー

妥協なし、リスクを見逃さない監査役



開発運用統括マネージャー
(CTO)

にしゃん

冷静合理、全体最適で判断する戦略責任者



運用サービスマネージャー
(DevOps Lead)

トーマス

本番最優先、安定稼働を守る現実主義者



開発部門リーダー
(Developer)

さやか

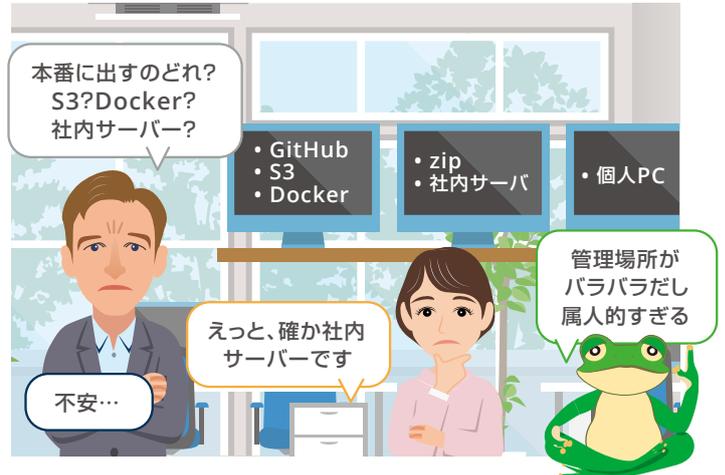
理屈より行動、忙しい現場主義の開発者

その成果物、管理できていますか？

現場あるある！ 成果物乱立編

そのバイナリ、どれが本番ですか？

管理されている“つもり”が危ない。今求められるのは“成果物”の一元管理



成果物は“一元管理”する時代へ

成果物の保管先が分散すると、どれが本番か・安全か・最新かが誰にも分からなくなります。いま企業には、最終成果物であるバイナリを一元的に管理・追跡し、「どこにあり、どこで使われているか」を即座に把握できる体制が求められています。

現場あるある！ セキュリティ事故編

コード確認だけで、本当に安全ですか？
SBOM対応必須！完成品の検査と、入口での選別が必要な時代へ

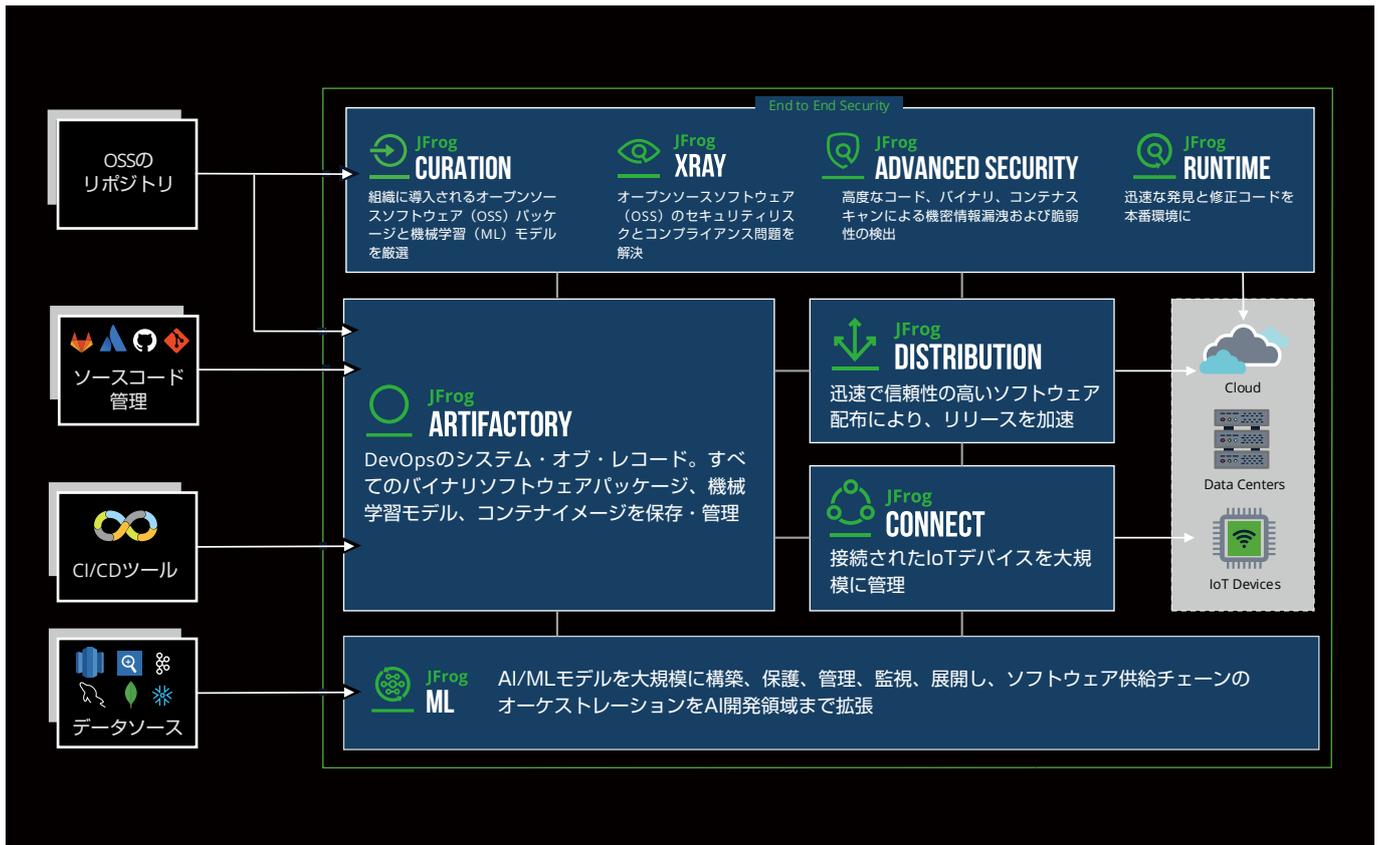


安全性は“バイナリ”まで確認する時代へ

サプライチェーン攻撃の増加により、セキュリティはコードスキャンだけでは不十分になりました。いま企業には、最終成果物であるバイナリまで追跡・検証し、「どれが安全か」を即座に把握できる体制が求められています。

ソフトウェア成果物を統合管理するプラットフォーム JFrogって何?

JFrogは、ビルド後のすべての成果物(バイナリ・コンテナ・OSS・AIモデル)を一元管理し、セキュリティ検査・追跡・配布を統制するソフトウェアサプライチェーン基盤です。加えてCurationにより、利用可能なOSSを事前に選別・統制し、安全な依存関係だけを開発に流通させ、リリースを安全かつ迅速に加速します。



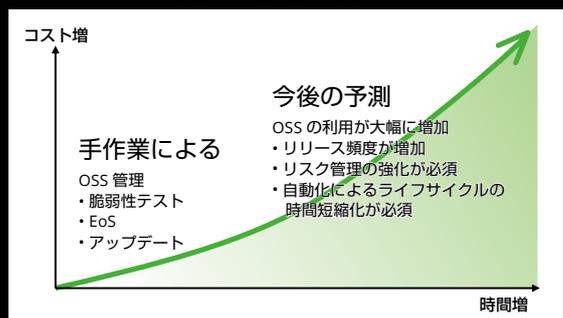
JFrogが求められる背景

デジタルビジネスの拡大により、「高品質なソフトウェアを短時間で継続的にリリースできるか」が企業競争力の鍵となりました。一方、OSS増加とリリース高速化で成果物管理やセキュリティ対応は複雑化し、分散管理では限界があります。こうした背景から、JFrogを採用する企業が増えています。

ビジネス側の変革(ソフトウェアの役割)

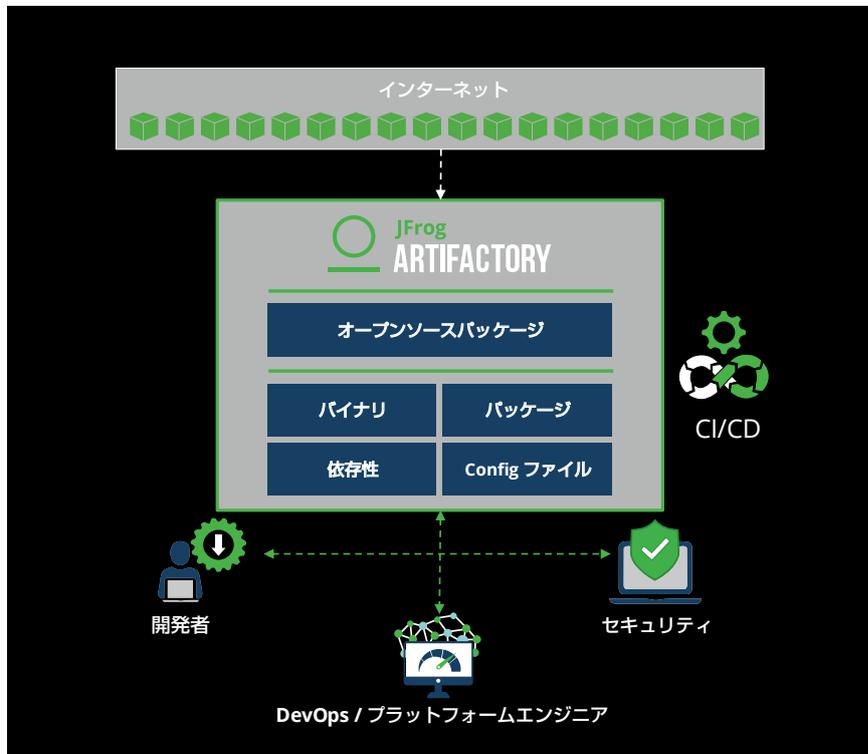
観点	これまで	これから
ソフトウェアの役割	業務を支える手段	競争力そのもの
事業スピード	計画的・段階的	継続的・高速
リリース	年数回の更新	常時改善・常時更新
収益への影響	間接的	直接的
開発体制	部門単位	全社横断
成果物管理	個別最適	全社統制が必要
経営リスク	限定的	セキュリティ・品質・追跡が経営課題

開発現場の課題



全社共通のアーティファクト管理基盤 (Artifactory)

JFrog Artifactoryは、ライブラリやコンテナ、バイナリなどの成果物を一元管理するリポジトリ基盤です。ビルド情報や依存関係、作成者などのメタデータを紐づけ、どの成果物がどこで使われているかを可視化。さらにOSS取得のプロキシとして外部依存も統制し、再現性と安全性の高いリリースを支えます。



ライフサイクル全体の継続的セキュリティ検証 (XRay)

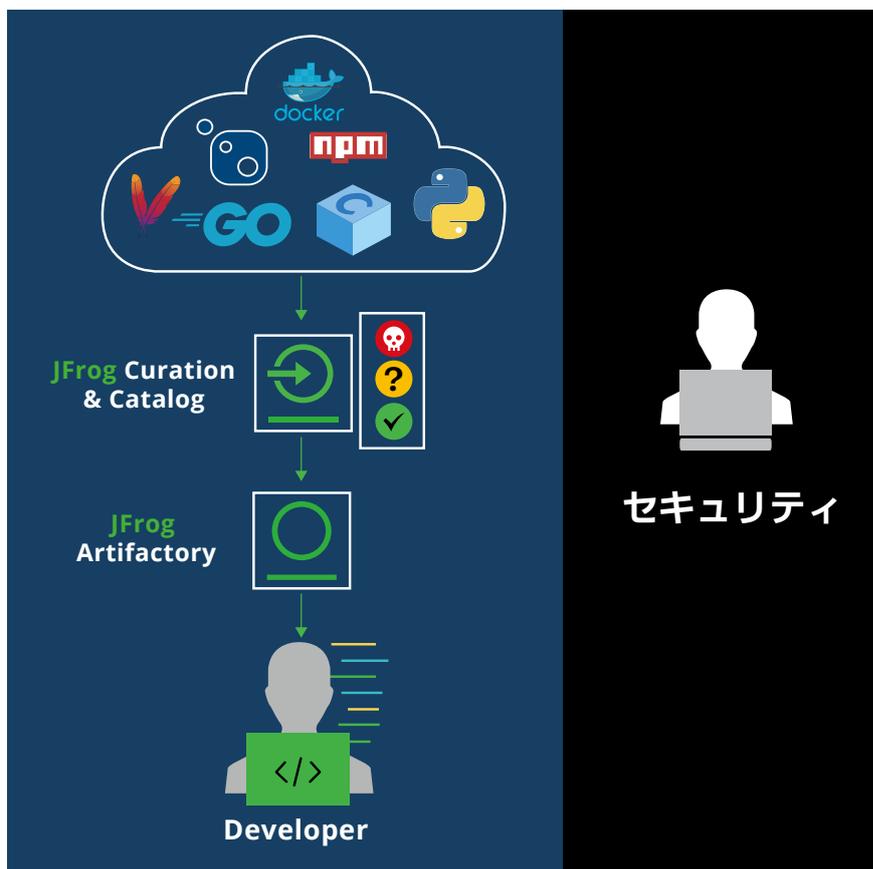
JFrog Xrayは、Artifactoryで管理されるアーティファクトに対してSCA*を実施し、脆弱性・ライセンス違反・悪意あるパッケージを検知するセキュリティ基盤です。ポリシー定義により違反成果物のダウンロードをブロックし、メールやチャットで通知。SBOM生成と継続的な再評価により、リリース前後を問わず安全性とコンプライアンスを維持します。



*SCA (Software Composition Analysis) とは、ソフトウェアに含まれるOSS (オープンソース) や外部ライブラリの中身を解析し、リスクを可視化する仕組み

OSSリスクを入口で遮断するセキュリティ統制基盤 (Curation & Catalog)

JFrog Curationは、外部OSSの取得時にポリシーで安全性を判定し、脆弱性や悪意あるパッケージをダウンロード前にブロック・制御する仕組みです。どのOSSを許可・例外承認するか判断には、脆弱性情報や評価を蓄積したCatalogを参照。Catalogで可視化・共有した情報を基に、Curationが取得を制御することで、安全な依存関係のみを組織全体で利用できる環境を実現します。



GitHubは“コード”を守る。JFrogは“出荷物”を守る。 GitHubとJFrogの連携

GitHubとJFrogを連携することで、コード管理から成果物の配布・検証までを一気通貫で自動化。コードスキャンに加えバイナリスキャンを実施し、最終成果物まで安全性と追跡性を確保した高速リリースを実現します。



	コードスキャン	バイナリスキャン (JFrog XRay)
対象	人間が書いたプログラム	コンパイル済みの実行ファイル
実施時期	開発段階	ビルド後、または配布・運用直前
サードパーティ製品	スキャン不可(ソースがない場合)	スキャン可能
ビルド環境のリスク	検知不可	検知可能
主な用途	開発者によるセキュアコーディングの確認	サプライチェーン攻撃対策、商用製品の検査

JFrog導入で企業はこう変わる

成果物の専門家、それがJFrog!



企業の競争力はソフトウェアの成果物統制で決まる
JFrogでリリース・統制・セキュリティを同時に強化

<p>1 リリース速度が競争力に直結する</p>	<p>2 セキュリティを「事後対応」から「全体統制」へ</p>
<p>成果物を一元管理し、パイプラインを自動化。リリースを高速化し、市場変化へ迅速に対応できます。</p>	<p>最終成果物まで継続的に検証。脆弱性やライセンスリスクを事前に把握し、事故と対応コストを抑えます。</p>
<p>3 どの成果物が安全かを即座に把握できる</p>	<p>4 開発・運用の分断を解消し、生産性を最大化</p>
<p>SBOMとメタデータで使用部品を可視化。影響範囲を即座に特定し、迅速な判断と対応が可能になります。</p>	<p>成果物を共通基盤で管理し、部門連携を強化。手作業を減らし、エンジニアが価値創出に集中できる環境を実現します。</p>
<p>5 監査・コンプライアンス対応を標準化</p>	<p>6 ツール乱立を解消し、ITコストを最適化</p>
<p>リリース履歴を自動記録し、証拠を一元管理。監査対応と内部統制を効率化します。</p>	<p>分散したリポジトリや配布基盤を統合。運用負荷とコストを削減し、全社共通基盤として最適化します。</p>

AI時代にもJFrogなら安心!

JFrog MLならAIモデルをソフトウェアと同じ基盤で安全に管理・配布

JFrogはAIも管理対象だよ!



JFrog MLは、機械学習モデルやデータ、依存関係などAI開発の成果物を一元管理する基盤です。モデルの作成から配布・運用までを追跡し、再現性とセキュリティを確保。既存のCI/CDやDevOps基盤と連携することでソフトウェアと同じパイプラインでAIを安全かつ迅速に本番へ届けられます。

安全なモデル配布ができるわね!



つまり学習環境・依存関係・メタデータを保持するから同じモデルをいつでも再現可能なんだね!すごっ!



AIモデルの一元管理ができる!しかもMLOpsの自動化はお手のもの!



これからは「AIモデル管理=競争力」だからね



JFrogの価値



ソフトウェア成果物を“経営資産”として統制する基盤

OSS依存・コンテナ・AIモデルまで含めた成果物を一元管理。脆弱性やライセンス違反を事前に統制し、重大インシデントの確率と損失を低減します。



サプライチェーンリスクを
経営管理下に

誰が・何を・いつリリースしたかを追跡可能に。SBOM対応・証跡管理により、規制強化にも即応できる体制を構築します。



監査・ガバナンスを標準化

ソフトウェアはもはや業務支援ツールではなく、事業そのもの。JFrogはリリース速度と品質を両立し、継続的な市場優位性を支えます。



競争力の源泉を可視化・統制

属人管理を排し、成果物とセキュリティを統制。開発力を最大化し、持続的な競争優位を実現します。



価値創出に集中

デモおよびトライアルのご案内

JFrogは無料トライアルで実際の操作感をお試しいただけます。導入イメージを確認できるデモのご案内も可能です。ご不明点はお気軽にお問い合わせください。

お申し込みはこちら

jfrog.com/ja/



JFrog Japan 株式会社
〒100-0005
東京都千代田区丸の内2-2-1 岸本ビル7F XLINK内
jfrog.com/ja/
記載事項は予告なく変更される場合があります。
© 2026 JFrog Ltd. All Rights Reserved.

内容の一部または全部をJFrog Ltd. の許可なく使用・複製することはできません。JFrogおよびJFrogロゴ、JFrog Artifactoryは、日本およびその他の国におけるJFrog Ltd.の登録商標です。その他のブランドまたは製品は、それぞれを保有する各社の商標または登録商標です。

2026年3月現在